

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4841251号
(P4841251)

(45) 発行日 平成23年12月21日(2011.12.21)

(24) 登録日 平成23年10月14日(2011.10.14)

(51) Int.Cl.

F 1

A 6 1 B 1/00 (2006.01)

A 6 1 B 1/00 3 3 4 B

G 0 2 B 23/24 (2006.01)

G 0 2 B 23/24 A

請求項の数 1 (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2006-6531 (P2006-6531)
 (22) 出願日 平成18年1月13日(2006.1.13)
 (65) 公開番号 特開2007-185371 (P2007-185371A)
 (43) 公開日 平成19年7月26日(2007.7.26)
 審査請求日 平成21年1月5日(2009.1.5)

(73) 特許権者 306037311
 富士フイルム株式会社
 東京都港区西麻布2丁目2番30号
 (74) 代理人 100083116
 弁理士 松浦 憲三
 (72) 発明者 渡邊 城治
 埼玉県さいたま市北区植竹町1丁目324
 番地 フジノン株式会社内
 審査官 大▲瀬▼ 裕久

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 内視鏡

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内視鏡を構成するゴム部材の少なくとも前記内視鏡を構成する他の部材との摺動部に、
 ポリアルキルシロキサンがコーティングされ、

前記ゴム部材は、内視鏡の手元操作部に設けられた処置具導入部に装着される鉗子栓で
 あり、

前記鉗子栓は、

前記処置具導入部に装着されるとともに処置具導入用の開口を有する栓本体と、

該栓本体に連結部を介して接続されるとともに前記栓本体に装着されることによって前
 記開口を閉塞する蓋部材とから成り、

前記栓本体及び／又は前記蓋部材は、装着時に摺動する部分と脱着時に摺動する部分の
 うちの前記装着時に摺動する部分に、前記ポリアルキルシロキサンがコーティングされる
 ことを特徴とする内視鏡。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は内視鏡に係り、特に鉗子栓、パルプのシール部材、挿入部の折れ止め部材等の
 ゴム部材を有する医療用内視鏡に関する。

【背景技術】

【0002】

医療用内視鏡は、術者が把持する手元操作部と、この手元操作部に連設された挿入部を有し、挿入部を被検者の体内に挿入することによって体内を観察する装置である。

【0003】

内視鏡の手元操作部には、鉗子挿入口が設けられており、この鉗子挿入口から鉗子等の処置具を挿入することによって、その処置具が挿入部の先端部の鉗子導出口から導出される。

【0004】

鉗子挿入口は口金が形成されており、この口金の先端にはゴム製の鉗子栓が取り付けられる。特許文献1に示す鉗子栓は、開口（処置具挿入口）を有する栓本体と、この栓本体の開口を閉塞する蓋体とで構成される。蓋体は、処置具を挿入する際に栓本体から外され、処置具を挿入しない時に体液等の逆流を防止するために栓本体に装着される。蓋体と栓本体との装着は、体内からの圧力によって容易に開かないように強固に締め付け固定されている。このため、蓋体と栓本体の着脱作業は非常に困難な操作となり、蓋体が完全に閉まらない場合も生じる。

【0005】

このような不具合を解消するため、特許文献2に記載の鉗子栓は、栓本体の開口部分に、四フッ化エチレン樹脂皮膜をコーティングしており、蓋体をスムーズに装着できるようになっている。また、特許文献3に記載の鉗子栓は、ゴムにオイルを含有して製造しており、潤滑性の向上を図っている。

【0006】

しかしながら、特許文献2の鉗子栓は、弾性部材である本体に四フッ化エチレン樹脂皮膜をコーティングしているため、蓋体の着脱操作を繰り返すことによってコーティングが剥がれ、蓋体の着脱操作が困難になるという不具合があった。さらに、特許文献2の鉗子栓は、コーティングによって蓋体を装着しやすくなる反面、蓋体が栓本体から外れやすいという不具合もあった。また、特許文献3の鉗子栓は、洗浄時にオイル成分が除去されてしまい、潤滑性が低下するという問題があった。

【0007】

このように従来の鉗子栓は、摺動性と密着性の一方しか満たすことができないという問題や、適切な摺動性と密着性を長期間維持することができないという問題があった。このような問題は、内視鏡の他のゴム部材においても生じている。

【0008】

たとえば、内視鏡の手元操作部には、挿入部の先端部にエア、水を供給するための送気・送水バルブや、挿入部の先端部から吸引を行うための吸引バルブが設けられるが、これらのバルブには、ピストンとシリンダとの隙間をシールするためのゴム製のシール部材が用いられる。このシール部材においても上記の栓部材と同様に、高い摺動性と密着性の両方を長期間維持することが必要になる。特許文献4には、摺動性と密着性の両方を満たすシール部材として、変形しやすく、且つ、過度の変形を防止できる形状のシール部材が開示されている。しかし、特許文献4のシール部材は、その弾性力によってシールを行うため、摺動性と密着性の両方を適切な範囲にすることが非常に困難であるとともに、長期間の使用によって弾性力が低下し、密着性が損なわれるという不具合があった。

【0009】

内視鏡の別のゴム部材としては、折れ止め部材がある（たとえば特許文献5参照）。折れ止め部材は、軟性チューブ（たとえば可撓性を有する挿入部やユニバーサルケーブル）に外嵌することによって、軟性チューブが小さな曲率半径で曲がることを防止するものである。この折れ止め部材は、気密保持のために軟性チューブの外周面に密着することが必要である一方で、軟性チューブを湾曲させた際に軟性チューブの保護のために軟性チューブに摺動する必要がある。このため、特許文献5の折れ止め部材には、親水性潤滑処理が施されている。しかし、特許文献5の折れ止め部材は、折れ止め部材が弾性変形した際にコーティングが剥がれてしまい、高い摺動性と密着性の両方を長期間維持することが難しいという問題があった。

【特許文献1】特開2004-141303号公報

【特許文献2】特開平11-253395号公報

【特許文献3】実開昭62-155802号公報

【特許文献4】特開平9-122069号公報

【特許文献5】実開平2-126601号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0010】

上述したように内視鏡には多数のゴム部材が用いられており、これらのゴム部材において高い摺動性と密着性の両方を長期間維持することが必要であるが、従来のゴム部材は、高い摺動性と密着性の両方を長期間維持することができないという問題があった。

10

【0011】

本発明はこのような事情に鑑みてなされたもので、高い摺動性と密着性の両方を長期間維持することのできるゴム部材を備えた内視鏡を提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0012】

本発明は前記目的を達成するために、内視鏡を構成するゴム部材の少なくとも前記内視鏡を構成する他の部材との摺動部に、ポリアルキルシロキサンがコーティングされ、前記ゴム部材は、内視鏡の手元操作部に設けられた処置具導入部に装着される鉗子栓であり、前記鉗子栓は、前記処置具導入部に装着されるとともに処置具導入用の開口を有する栓本体と、該栓本体に連結部を介して接続されるとともに前記栓本体に装着されることによって前記開口を閉塞する蓋部材とから成り、前記栓本体及び／又は前記蓋部材は、装着時に摺動する部分と脱着時に摺動する部分のうちの前記装着時に摺動する部分に、前記ポリアルキルシロキサンがコーティングされることを特徴とする。

20

【0013】

本発明によれば、ゴム部材の摺動部に、摩擦低減効果のあるポリアルキルシロキサンをコーティングしたので、摺動部の摩擦抵抗を減少させることができ、ゴム部材の摺動性を向上させることができる。また、ポリアルキルシロキサンは密着性が高いので、弾性部材にコーティングした際に、弾性部材とともに変形しやすく、且つ、剥がれにくいという特性を有している。したがって、本発明によれば、ポリアルキルシロキサンをコーティングしたゴム部材は、高い密着性と摺動性を長期間にわたって維持することができる。

30

【0014】

鉗子栓は摺動性と密着性を長期間に渡って維持することが必要な部材であり、この鉗子栓にポリアルキルシロキサンをコーティングすることによって、鉗子栓は、高い密着性と摺動性を長期間にわたって維持することができる。

【0016】

本発明によれば、鉗子栓の栓部材と蓋部材のうち、装着時に摺動する部分にポリアルキルシロキサンをコーティングしたので、蓋部材と栓部材の装着を容易に行うことができる。また、脱着時に摺動する部分にポリアルキルシロキサンをコーティングせずにゴムを露出したので、栓本体と蓋部材との摩擦抵抗が大きくなり、蓋部材が栓本体から外れることを防止することができる。

40

【発明の効果】

【0021】

本発明によれば、内視鏡のゴム部材の摺動部にポリアルキルシロキサンをコーティングするようにしたので、高い摺動性と密着性の両方を得ることができ、且つ、その高い摺動性と密着性を長期間にわたって維持することができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0022】

以下添付図面に従って本発明に係る内視鏡の好ましい実施の形態について詳述する。図1は本発明が適用された内視鏡を示す斜視図である。

50

【 0 0 2 3 】

同図に示すように、内視鏡 1 0 は、手元操作部 1 2 と、この手元操作部 1 2 に連設された挿入部 1 4 とを備える。手元操作部 1 2 には、ユニバーサルケーブル 1 6 が接続され、このユニバーサルケーブル 1 6 の先端に L G コネクタ 1 8 が設けられる。L G コネクタ 1 8 は不図示の光源装置に着脱自在に連結され、これによって後述の照明窓（図 2 参照）に照明光が送られる。また、L G コネクタ 1 8 には、ケーブル 2 0 を介して電気コネクタ 2 2 が接続され、この電気コネクタ 2 2 が不図示のプロセッサに着脱自在に連結される。なお、図 1 の符号 2 3 は、電気コネクタ 2 2 のキャップであり、洗浄時に電気コネクタ 2 2 に装着される。

【 0 0 2 4 】

手元操作部 1 2 には、送気・送水ボタン 2 4、吸引ボタン 2 6、及び、シャッターボタン 2 8 が並設されるとともに、一对のアングルノブ 3 0、3 0 が設けられる。また、手元操作部 1 2 には鉗子挿入部 3 2 が設けられ、この鉗子挿入部 3 2 の先端に後述の鉗子栓 6 0 が装着される。

【 0 0 2 5 】

挿入部 1 4 は、手元操作部 1 2 側から順に軟性部 3 6、湾曲部 3 8、及び先端部 4 0 で構成され、湾曲部 3 8 は、手元操作部 1 2 のアングルノブ 3 0、3 0 を回動することによって遠隔的に湾曲操作される。これにより、先端部 4 0 を所望の方向に向けることができる。

【 0 0 2 6 】

図 2 に示すように、先端部 4 0 の先端面 4 2 には、観察窓（カバーガラス）4 4、照明窓 4 6、4 6、送気・送水ノズル 4 8、鉗子口 5 0 が設けられる。

【 0 0 2 7 】

観察窓 4 4 の後方には観察光学系、C C D（不図示）が配設され、この C C D を支持する基板には信号ケーブル（不図示）が接続される。信号ケーブルは図 1 の挿入部 1 4、手元操作部 1 2、ユニバーサルケーブル 1 6 等に挿通されて電気コネクタ 2 2 まで延設され、不図示のプロセッサに接続される。観察窓 4 4 から取り込まれた観察像は、C C D の受光面に結像されて電気信号に変換され、そして、この電気信号が信号ケーブルを介してプロセッサに出力され、映像信号に変換される。これにより、プロセッサに接続されたモニタ（不図示）に観察画像が表示される。

【 0 0 2 8 】

図 2 の照明窓 4 6、4 6 の後方にはライトガイド（不図示）の出射端が配設されている。このライトガイドは、図 1 の挿入部 1 4、手元操作部 1 2、ユニバーサルケーブル 1 6 に挿通され、L G コネクタ 1 8 内に入射端が配設される。したがって、L G コネクタ 1 8 を光源装置（不図示）に連結することによって、光源装置から照射された照明光がライトガイドを介して照明窓 4 6、4 6 に伝送され、照明窓 4 6、4 6 から前方に照射される。

【 0 0 2 9 】

図 2 の送気・送水ノズル 4 8 は、図 3 の送気・送水ボタン 2 4 によって操作される送気・送水バルブ（シリンダ 7 0 及びピストン 7 2）に連通され、さらにこの送気・送水バルブは図 1 の L G コネクタ 1 8 の送気・送水コネクタ 5 2 に連通される。送気・送水コネクタ 5 2 には不図示の送気・送水手段が接続され、この送気・送水手段からエア及び水が供給される。したがって、送気・送水ボタン 2 4 を操作することによって、送気・送水ノズル 4 8 からエア又は水を観察窓 4 4 に向けて噴射することができる。

【 0 0 3 0 】

図 2 の鉗子口 5 0 は、図 1 の鉗子挿入部 3 2 に連通されている。よって、鉗子挿入部 3 2 から鉗子等の処置具を挿入することによって、この処置具を鉗子口 5 0 から導出することができる。また、鉗子口 5 0 は、図 3 の吸引ボタン 2 6 によって操作される吸引バルブ（シリンダ 8 0 及びピストン 8 2）に連通され、さらにこの吸引バルブが図 1 の L G コネクタ 1 8 の吸引コネクタ 5 4 に接続される。したがって、吸引コネクタ 5 4 に不図示の吸引ポンプを接続し、吸引ボタン 2 6 で吸引バルブを操作することによって、鉗子口 5 0 か

10

20

30

40

50

ら病変部等を吸引することができる。

【 0 0 3 1 】

ところで、内視鏡 1 0 には、摺動性と密着性の両方が要求される複数のゴム部材が用いられている。以下にそのゴム部材について鉗子栓 6 0 の例で説明する。

【 0 0 3 2 】

図 3 は手元操作部 1 2 の組立図を示している。また、図 4 は鉗子挿入部 3 2 の構成を示す断面図であり、図 5 及び図 6 は鉗子栓 6 0 を示す断面図である。図 5 は蓋体 6 6 を栓本体 6 4 から外した状態を示しており、図 6 は蓋体 6 6 を栓本体 6 4 に装着した状態を示している。

【 0 0 3 3 】

図 4 に示すように鉗子挿入部 3 2 は、手元操作部 1 2 に固定された口金 6 2 を有し、この口金 6 2 に鉗子栓 6 0 が装着される。鉗子栓 6 0 は、図 5 に示すように、栓本体 6 4 と蓋体 6 6 とを帯状の連結部 6 8 で連結することによって構成される。これらの栓本体 6 4、蓋体 6 6 及び連結部 6 8 はシリコンゴム等のゴム材によって一体的に形成される。この場合、栓本体 6 4、蓋体 6 6 はどちらか一方の部材に対して他方が他の部材に相当する。なお、栓本体 6 4、蓋体 6 6 及び連結部 6 8 は一体でなくともよいが、栓本体 6 4 と蓋体 6 6 の少なくとも一方がゴム材によって形成され、そのゴム材に後述のポリアルキルシロキサンがコーティングされる。

【 0 0 3 4 】

栓本体 6 4 は、略円筒状に形成されており、その内周面には凹状の溝 6 4 A が一周にわたって形成される。この溝 6 4 A は、図 4 の口金 6 2 のフランジ 6 2 A が嵌合するように形成されている。したがって、栓本体 6 4 を弾性変形させながら、口金 6 2 のフランジ 6 2 A を溝 6 4 A に嵌合することによって、栓本体 6 4 が口金 6 2 に固定される。なお、栓本体 6 4 と口金 6 2 の嵌合力は、栓本体 6 4 と蓋体 6 6 との嵌合力よりも大きく設定される。

【 0 0 3 5 】

栓本体 6 4 の内周面には絞り通路 6 4 B が形成される。この絞り通路 6 4 B は、鉗子等の内視鏡処置具を挿入するためのもので、内視鏡処置具よりも若干小さい径で形成されている。この絞り通路 6 4 B を挟んで溝 6 4 A の反対側には凹条部 6 4 C が円周方向に一周にわたって形成されている。この凹条部 6 4 C は、蓋体 6 6 の凸条部 6 6 C が嵌合するように形成されている。

【 0 0 3 6 】

蓋体 6 6 は、略円柱状に形成されており、その一方の端部の外周面には凸条部 6 6 C が円周方向に一周にわたって形成されている。図 6 に示すように、連結部 6 8 を湾曲させ、蓋体 6 6 の凸条部 6 6 C を栓本体 6 4 の凹条部 6 4 C に嵌入することによって、蓋体 6 6 が栓本体 6 4 に装着される。

【 0 0 3 7 】

なお、蓋体 6 6 は、先端部（すなわち栓本体 6 4 に装着される側の端部）の外周部にテーパ 6 6 D が形成されている。また、栓本体 6 4 は、先端部（すなわち蓋体 6 6 が装着される側の端部）の内周部に傾斜面 6 4 D が形成され、先端になるほど内径が大きく形成される。これにより、蓋体 6 6 と栓本体 6 4 との嵌合を容易に行うことができる。

【 0 0 3 8 】

蓋体 6 6 の中央部にはスリット 6 6 B が形成されている。したがって、蓋体 6 6 を栓本体 6 4 に装着した状態でも、スリット 6 6 B を介して注射針などの細径の処置具を絞り通路 6 4 B に挿入できるようになっている。

【 0 0 3 9 】

なお、蓋体 6 6 には、半球状の窪み 6 6 E が形成されており、スリット 6 6 B に細径の処置具を挿入する際にガイドとして作用するようになっている。

【 0 0 4 0 】

上記の如く構成された鉗子栓 6 0 において、鉗子等の内視鏡処置具を使用しない場合に

10

20

30

40

50

は、蓋体 6 6 が栓本体 6 4 に装着される。その際、連結部 6 8 を湾曲させ、蓋体 6 6 と栓本体 6 4 を弾性変形させながら、蓋体 6 6 を栓本体 6 4 の内部に挿入し、蓋体 6 6 の凸条部 6 6 C を栓本体 6 4 の凹条部 6 4 C に嵌合させる。これにより、蓋体 6 6 が栓本体 6 4 に装着され、絞り通路 6 4 B が蓋体 6 6 によって閉塞されるので、口金 6 2 からの体液等の流出が防止される。

【 0 0 4 1 】

蓋体 6 6 を栓本体 6 4 に装着する際、蓋体 6 6 と栓本体 6 4 は、その一部が摺動する。蓋体 6 6 の摺動部は、テーパ面 6 6 D 及び凸条部 6 6 C の外周面であり、栓本体 6 4 の摺動部は、傾斜面 6 4 D と、その傾斜面 6 4 D と凹条部 6 4 C との間の内周面 6 4 E である。以下、それらの面 (6 6 D、6 6 C、6 4 D、6 4 E) を総称して装着時摺動面と称す。

10

【 0 0 4 2 】

装着時摺動面には、ポリアルキルシロキサンがコーティングされる。コーティング方法は特に限定するものではないが、たとえばスプレー、ディッピング、ハケ塗り、スピンコート等で行われる。コーティング後は、100 以上 (好ましくは100 以上150 以下) の焼き付け工程を行うことが好ましい。これにより、ポリアルキルシロキサンと装着時摺動面との密着性をより向上させることができる。

【 0 0 4 3 】

上述したポリアルキルシロキサンは摩擦低減効果を有している。したがって、装着時摺動面にポリアルキルシロキサンをコーティングすることによって、蓋体 6 6 と栓本体 6 4 とを摺動させた際の摩擦抵抗を減少させることができ、蓋体 6 6 と栓本体 6 4 とを容易に装着することができる。また、蓋体 6 4 と栓本体 6 6 を装着する際の摩擦抵抗が減るので、蓋体 6 6 と栓本体 6 4 との公差を小さくして密着性を向上させることができる。これにより、蓋体 6 6 を栓本体 6 4 に装着した際の気密性を向上させることができる。

20

【 0 0 4 4 】

また、ポリアルキルシロキサンのコーティングは、ポリマー構造の被覆が基材と密着するため、弾性部材である蓋体 6 6 や栓本体 6 4 との密着性が良く、蓋体 6 6 や栓本体 6 4 を弾性変形させた際にポリアルキルシロキサンのコーティングが一緒に変形する。したがって、蓋体 6 6 と栓本体 6 4 との着脱を繰り返して行った際であってもポリアルキルシロキサンが剥がれにくいので、上述の摺動性と密着性を長期間維持することができる。

30

【 0 0 4 5 】

また、ポリアルキルシロキサンのコーティングは、下処理が不要であり、安いコストでコーティングを行うことができる。したがって、ポリアルキルシロキサンのコーティングを行った場合には、他のコート材をコーティングした場合に比べて、安価でゴムの柔軟性を損なわずに耐久性の良い潤滑性能を付与することができる。

【 0 0 4 6 】

さらに、ポリアルキルシロキサンのコーティングが長期間維持されるので、蓋体 6 6 と栓本体 6 4 との着脱を繰り返して行った際に発生しやすいブルーミングを防止することができる。

【 0 0 4 7 】

次に他のゴム部材として、手元操作部 1 2 に設けられる送気・送水バルブのシール部材の例で説明する。

40

【 0 0 4 8 】

送気・送水バルブは、図 3 に示すシリンダ 7 0 とピストン 7 2 によって構成される。シリンダ 7 0 は手元操作部 1 2 に固定されており、ピストン 7 2 はシリンダ 7 0 に挿脱自在に設けられる。ピストン 7 2 の上端には送気・送水ボタン 2 4 が取り付けられており、また、ピストン 7 2 には摘まり部材 7 4 が取り付けられ、この摘まり部材 7 4 に対してピストン 7 2 が軸方向にスライド自在に支持される。また、摘まり部材 7 4 は、手元操作部 1 2 に嵌合されるように構成される。上記のピストン 7 2、送気・送水ボタン 2 4、及び、摘まり部材 7 4 はユニット化されており、送気・送水ボタンユニットとしてシリンダ 7 0

50

に着脱できるように構成される。

【 0 0 4 9 】

図 7 は送気・送水ボタンユニットを示す側面図である。同図に示すように、ピストン 7 2 には、シリコンゴム、フッ素ゴム、E P D Mなどのゴム部材から成る複数のＯリング（シール部材に相当）7 6、7 6 ...が取り付けられている。このＯリング 7 6 は、送気・送水ボタンユニットをシリンダ 7 0 に装着した際にピストン 7 2 の外周面とシリンダ 7 0 の内周面との間に配置され、ピストン 7 2 とシリンダ 7 0 の気密を保持するものである。したがって、ピストン 7 2 とシリンダ 7 0 の両方に密着性が高いことが必要になる。一方で、送気・送水ボタン 2 4 を操作した際に、Ｏリング 7 6 はピストン 7 2 とともに移動し、シリンダ 7 0 に対して摺動するので、摺動性も必要となる。

10

【 0 0 5 0 】

そこで、Ｏリング 7 6 の表面にポリアルキルシロキサンをコーティングする。ポリアルキルシロキサンは上述したように、摩擦低減効果を有するとともに、密着性が高いので剥がれにくいという特性を有する。したがって、Ｏリング 7 6 による気密性（密着性）を維持しながら、Ｏリング 7 6 とシリンダ 7 0 との摺動性を高めることができ、さらに、その高い気密性と摺動性を長期間維持することができる。

【 0 0 5 1 】

また、ポリアルキルシロキサンによってＯリング 7 6 とシリンダ 7 0 との摺動性を高めたことによって、送気・送水ボタン 2 4 の押圧操作時に必要な押し込み力が減少するので、バルブの操作性を向上させることができる。さらに、ポリアルキルシロキサンのコーティングによってＯリング 7 6 とシリンダ 7 0 とが確実に摺動するので、ピストン 7 2 を元の位置に復帰させるためのスプリングの圧縮力を減少させることができる。

20

【 0 0 5 2 】

次に他のゴム部材の例として、手元操作部 1 2 に設けられる吸引バルブのシール部材の例で説明する。

【 0 0 5 3 】

吸引バルブは、図 3 に示すシリンダ 8 0 とピストン 8 2 によって構成される。シリンダ 8 0 は手元操作部 1 2 に固定されており、ピストン 8 2 はシリンダ 8 0 に挿抜自在に設けられる。ピストン 8 0 の上端には吸引ボタン 2 6 が取り付けられており、また、ピストン 8 2 には摘み部材 8 4 が取り付けられ、この摘み部材 8 4 に対してピストン 8 2 が軸方向にスライド自在に支持される。また、摘み部材 8 4 は、手元操作部 1 2 に嵌合されるように構成される。上記のピストン 8 2、吸引ボタン 2 6、及び、摘み部材 8 4 はユニット化されており、吸引ボタンユニットとしてシリンダ 8 0 に着脱できるように構成される。

30

【 0 0 5 4 】

図 8 は吸引ボタンユニットを示す側面図である。同図に示すように、ピストン 8 2 には、シリコンゴム、フッ素ゴム、E P D Mなどのゴム部材から成る複数のＯリング（シール部材に相当）8 6、8 6 ...が取り付けられている。このＯリング 8 6 は、吸引ボタンユニットをシリンダ 8 0 に装着した際にピストン 8 2 の外周面とシリンダ 8 0 の内周面との間に配置され、ピストン 8 2 とシリンダ 8 0 の気密を保持するものである。したがって、ピストン 8 2 とシリンダ 8 0 の両方に密着性が高いことが必要になる。一方で、吸引ボタン 2 6 を操作した際に、Ｏリング 8 6 はピストン 8 2 とともに移動してシリンダ 8 0 に対して摺動するので、摺動性も必要となる。

40

【 0 0 5 5 】

そこで、Ｏリング 8 6 の表面にポリアルキルシロキサンをコーティングする。ポリアルキルシロキサンは上述したように、摩擦低減効果を有するとともに、密着性が高いので剥がれにくいという特性を有する。したがって、Ｏリング 8 6 による気密性（密着性）を維持しながら、Ｏリング 8 6 とシリンダ 8 0 との摺動性を高めることができ、さらに、その高い気密性と摺動性を長期間維持することができる。

【 0 0 5 6 】

50

また、ポリアルキルシロキサンによってＯリング８６とシリンダ８０との摺動性を高めたことによって、吸引ボタン２６の押圧操作時に必要な押し込み力が減少するので、バルブの操作性を向上させることができる。さらに、ポリアルキルシロキサンのコーティングによってＯリング８６とシリンダ８０とが確実に摺動するので、ピストン８２を元の位置に復帰させるためのスプリングの圧縮力を減少させることができる。

【００５７】

なお、上述した実施の形態では、送気・送水バルブや吸引バルブの例で説明したが、内視鏡に用いられる他のバルブのシール部材にも本発明を適用することができる。たとえば、図１のＬＧコネクタ１８内には、吸引コネクタ５４に連通されるバルブが設けられるが、このバルブのシール部材にもポリアルキルシロキサンをコーティングしてもよい。

10

【００５８】

次に他のゴム部材の例として、折れ止め部材の例で説明する。内視鏡１０には、複数の可撓性チューブ（たとえば挿入部１４、ユニバーサルケーブル１６、ケーブル２０など）が設けられており、これらの可撓性チューブは、小さな曲率半径で湾曲させると、その内容物（たとえばライトガイド、信号ケーブル、送気・送水用のチューブ、吸引用のチューブなど）を損傷するおそれがあることから、ゴム製の折れ止め部材が外嵌されて保護される。

【００５９】

たとえば図９に示すように、挿入部１４の軟性部３６には、その手元操作部１２側の端部に、シリコンゴム、フッ素ゴム、ＥＰＤＭなどのゴム部材から成る折れ止め部材９０が外嵌されている。この折れ止め部材９０は、円筒状に形成された連結部９０Ａを有し、この連結部９０Ａが手元操作部１２の連結部１２Ａに外嵌されて固定される。連結部９０Ａの先端側には、先端側になるほど径が小さくなる略裁頭円錐形状のテーパ部９０Ｂが連設されており、このテーパ部９０Ｂの先端側には円筒状のストレート部９０Ｃが連設される。ストレート部９０Ｃは、その内径が挿入部１４の軟性部３６の外径よりも若干小さく形成されており、ストレート部９０Ｃに軟性部３６を挿通させた際にストレート部９０Ｃの内周面が軟性部３６の外周面に密着するように構成される。これにより、手元操作部１２内の気密を保持することができ、体液や異物などが手元操作部１２内に侵入することを防止することができる。

20

【００６０】

折れ止め部材９０は、連結部９０Ａ、テーパ部９０Ｂ及びストレート部９０Ｃがシリコンゴムなどのゴム材によって一体的に形成されており、ストレート部９０Ｃの内周面にはポリアルキルシロキサンがコーティングされる。したがって、折れ止め部材９０のストレート部９０Ｃは、軟性部３６との摩擦抵抗が小さくなり、軟性部３６に対して高い摺動性が得られる。

30

【００６１】

上記の如く構成された折れ止め部材９０は、軟性部３６を大きく湾曲させた際に、ストレート部９０Ｃが軟性部３６に密着した状態のまま弾性変形し、軟性部３６にかかる応力を分散して軟性部３６の折れを防止できる。その際、ポリアルキルシロキサンのコーティングがない場合は、ストレート部９０Ｃが軟性部３６に対して摺動しないため、折れ止め部材９０に大きな負荷がかかって軟性部３６に割れが発生したり、軟性部９０に大きな応力がかかって軟性部９０を損傷したりするおそれがある。本実施の形態では、折れ止め部材９０のストレート部９０Ｃにポリアルキルシロキサンがコーティングされているので、ストレート部９０Ｃが気密を保持したまま軟性部３６との摺動性が良く、折れ止め部材９０や軟性部３６の損傷を防止することができる。

40

【００６２】

また、ポリアルキルシロキサンのコーティングは、ゴム部材である折れ止め部材９０に対して密着性が良く剥がれにくいので、折れ止め部材９０は、軟性部３６に対して高い摺動性と密着性を長期間にわたって維持することができる。

【００６３】

50

なお、上述した実施の形態は、挿入部 14 の軟性部 36 用の折れ止め部材 90 に本発明を適用した例で説明したが、他の折れ止め部材に本発明を適用してもよい。すなわち、図 1 に示す内視鏡 10 には、ユニバーサルケーブル 16 用の折れ止め部材 92、94 やケーブル 20 用の折れ止め部材 96、98 が設けられているが、これらの折れ止め部材 92、94、96、98 に本発明を適用してもよい。これらの折れ止め部材 92、94、96、98 においても、ユニバーサルケーブル 16 やケーブル 20 との摺動面にポリアルキルシロキサンをコーティングすることによって、ユニバーサルケーブル 16 やケーブル 20 に対して高い密着性を維持しつつ、高い摺動性を得ることができ、且つ、その高い密着性と摺動性を長期間にわたって維持することができる。

【0064】

10

また、本発明が適用されるゴム部材は、上述した実施の形態に限定されるものではなく、内視鏡 10 において摺動部を有するゴム部材であれば本発明を適用することができる。たとえば、図 1 の電気コネクタ 22 のキャップ 23 をゴム材で構成するとともに、電気コネクタ 22 との摺動部にポリアルキルシロキサンをコーティングしてもよい。

【0065】

また、挿入部 14 やユニバーサルケーブル 16 の内容物（ライトガイド、信号ケーブル、送気・送水用のチューブ、吸引用のチューブなど）にポリアルキルシロキサンをコーティングしてもよい。すなわち、ライトガイドや信号ケーブルの被覆がシリコンゴム等のゴム材である場合には、その被覆の上にポリアルキルシロキサンをコーティングし、送気・送水用のチューブや吸引用のチューブがシリコンゴム等のゴム材の場合には、その外表面にポリアルキルシロキサンをコーティングするとよい。これにより、内容物同士の摩擦抵抗を減少させることができ、挿入部 14 やユニバーサルケーブル 16 を湾曲させた際に内容物が損傷することを防止することができる。

20

【図面の簡単な説明】

【0066】

【図 1】本発明が適用された内視鏡を示す斜視図

【図 2】内視鏡の挿入部の先端部を示す斜視図

【図 3】手元操作部の組み立て図

【図 4】鉗子挿入部の断面図

【図 5】鉗子栓の断面図

30

【図 6】鉗子栓の断面図

【図 7】送気・送水ボタンユニットを示す側面図

【図 8】吸引ボタンユニットを示す部分断面図

【図 9】折れ止め部材を示す断面図

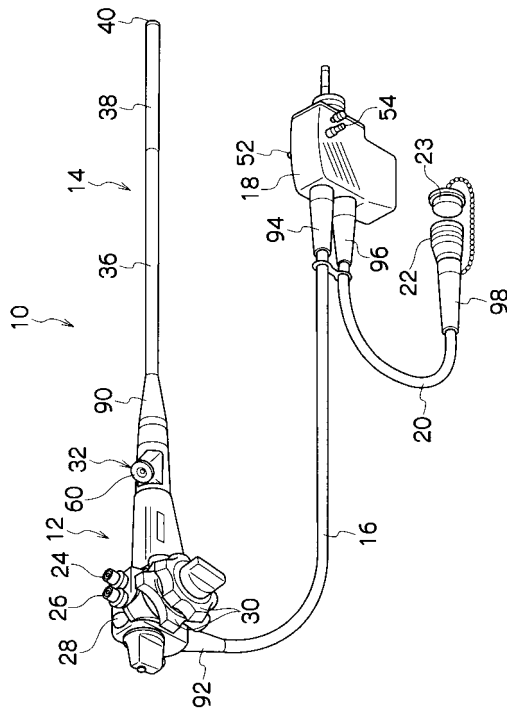
【符号の説明】

【0067】

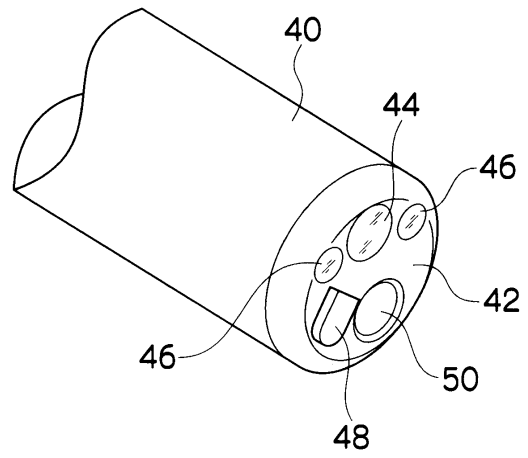
10 ... 内視鏡、12 ... 手元操作部、14 ... 挿入部、24 ... 送気・送水ボタン、26 ... 吸引ボタン、60 ... 鉗子栓、62 ... 口金、64 ... 栓本体、66 ... 蓋体、70 ... シリンダ、72 ... ピストン、76 ... Oリング、80 ... シリンダ、82 ... ピストン、86 ... Oリング、90、92、94、96、98 ... 折れ止め部材

40

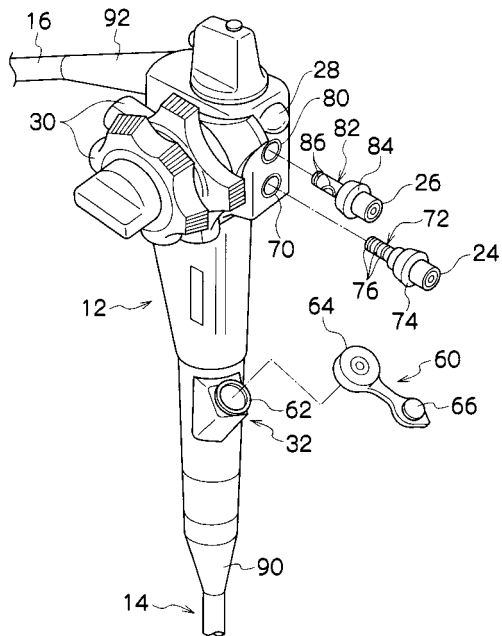
【図 1】



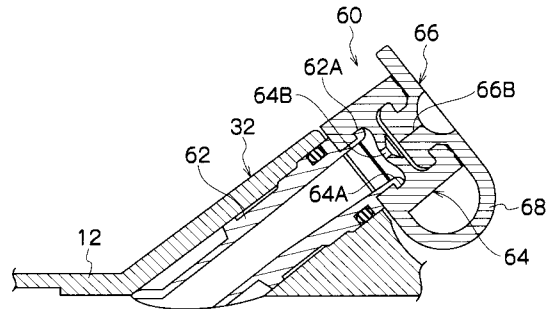
【図 2】



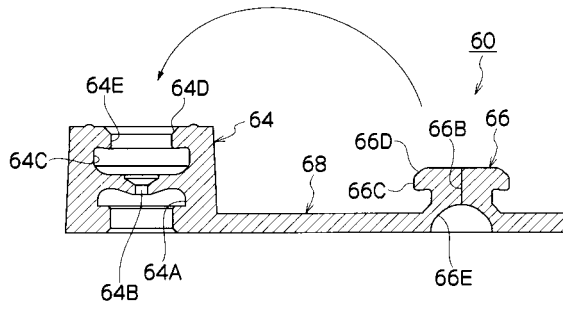
【図 3】



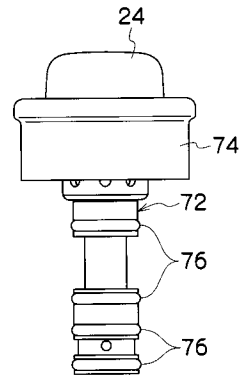
【図 4】



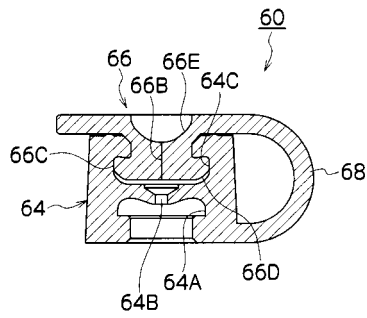
【図 5】



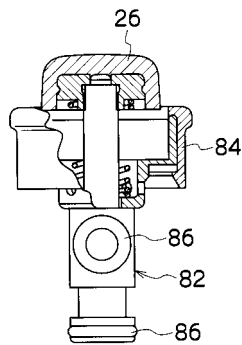
【図 7】



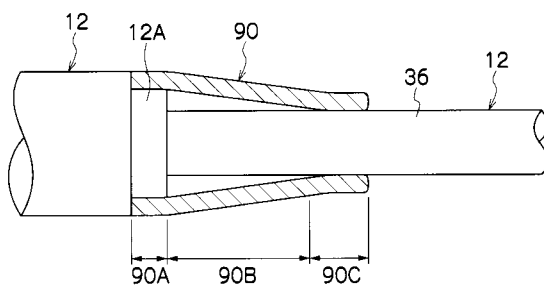
【図 6】



【図 8】



【図 9】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開2004-141303(JP,A)
国際公開第2004/083348(WO,A1)
特開平06-197861(JP,A)
実開平02-126606(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl.,DB名)
A61B 1/00

专利名称(译)	内视镜		
公开(公告)号	JP4841251B2	公开(公告)日	2011-12-21
申请号	JP2006006531	申请日	2006-01-13
[标]申请(专利权)人(译)	富士写真光机株式会社		
申请(专利权)人(译)	富士公司		
当前申请(专利权)人(译)	富士胶片株式会社		
[标]发明人	渡邊城治		
发明人	渡邊 城治		
IPC分类号	A61B1/00 G02B23/24		
CPC分类号	A61B1/018 A61B1/00137 A61L29/085		
FI分类号	A61B1/00.334.B G02B23/24.A A61B1/00.711 A61B1/00.714 A61B1/00.716 A61B1/00.717 A61B1/015 A61B1/018.512		
F-TERM分类号	2H040/DA11 2H040/DA21 2H040/DA51 4C061/HH23 4C061/JJ01 4C061/JJ11 4C161/HH23 4C161/JJ01 4C161/JJ11		
其他公开文献	JP2007185371A		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：提供一种包括橡胶构件的内窥镜，通过该内窥镜可以长期保持高滑动性和粘合性。解决方案：内窥镜10包括具有滑动部分的橡胶构件，例如，镊子插头60，O形环76,86和防弯曲构件90,92。每个橡胶构件的滑动部分涂覆有聚烷基硅氧烷。 Ž

